

福岡地域戦略推進協議会

第1期
活動報告書

2011年4月 ▶ 2014年3月

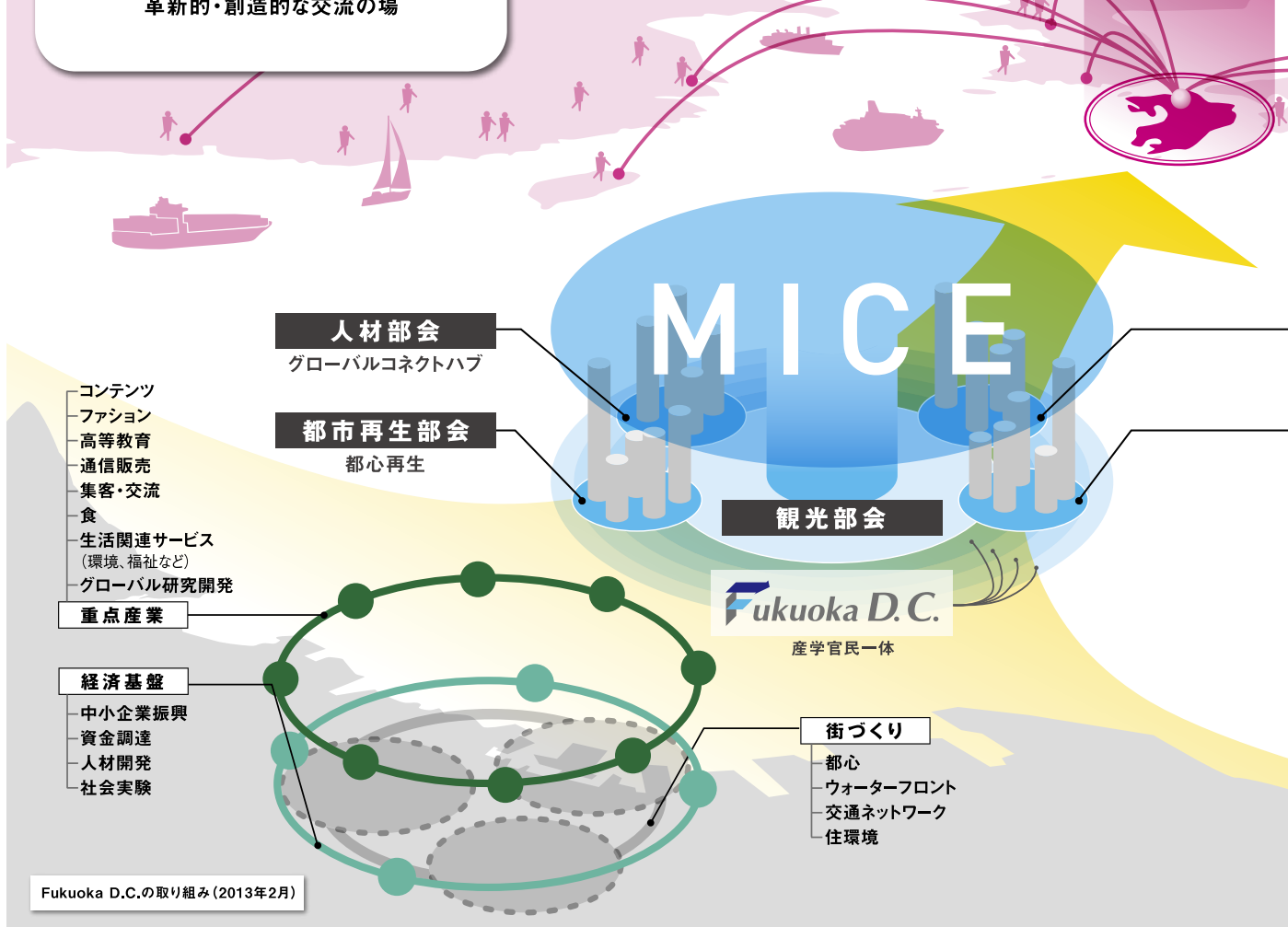
connected with the world
Fukuoka  World



東アジアの ビジネス ハブ

Fukuokaの成長の源泉

福岡都市圏から外へ向けて挑戦する環境
人材の多様性
革新的・創造的な交流の場



Fukuoka D.C.の取り組み (2013年2月)

地域診断

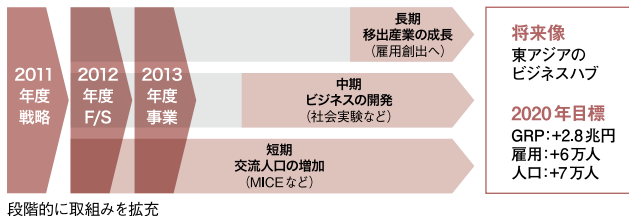
SWOT分析		機会	脅威
強み	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアの中心という戦略的な位置 高い暮らしの質 九州における中枢性 	<ul style="list-style-type: none"> アジアの成長と共にビジネス拠点として成長 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少 東日本大震災 世界経済危機 日本の国際競争力低下
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 低い社会的多様性 断片化したリーダーシップ 減少する公共投資力 	<ul style="list-style-type: none"> 産学官民パートナーシップによるスピードと責任ある推進 	<ul style="list-style-type: none"> 内需型産業の革新による雇用基盤の維持

戦略指針

「交流の活性化により質を重視した成長を図る」

金融危機を発端に、グローバル経済のブロック化が急速に進む中、世界中がアジアに成長の活路を見出そうとしている。一方、福岡においては、人口増加、支店経済といった従来の成長の源泉の先細りは確実である。そのため、内需型産業の革新を通じて地域の雇用基盤を維持すると共に、これまでの福岡の強みを活かしながらも、グローバルな視点で成長の機会を確実に捉えるために、国際競争力強化の戦略指針を「アジアとの交流の活性化により質を重視した成長を図る」と定め、成長の源泉を再構築する。具体的には、国際貿易都市としての福岡の歴史的必然性を踏まえつつ、戦略的な位置、高い暮らしの質、九州における中枢性、研究・教育機関の集積など現在の福岡の強みを活かし、成長著しいアジアとの交流を、多様性を重視しつつ段階的に活性化することで、「住みやすい地域」から「持続可能な地域」へ、そして「アジア・世界の人々にとっても住みやすい地域」へと、質を重視した成長を図る。

工程の組み立て



福岡地域戦略推進協議会 設立趣意書

～国際競争力強化による福岡都市圏の 持続的な成長に向けて～

アジアと日本を結ぶ玄関口に位置する福岡は、九州の交通および商業・ビジネス・文化の拠点として、これまで順調に発展して来た。そして、今日では、豊かな自然環境、充実した都市の利便性、美味しい食事、奥深い歴史・文化など、暮らしの質の高さで世界的に高い評価を得ている。しかし、今後は国内市場の拡大が望めない状況において、福岡の活力を維持強化していくためには、国際競争力を飛躍的に高めて、地域経済をグローバル化し、とりわけ成長著しいアジアの内需を取り込んでいくことが必要である。そのためには、世界各地から多様な人材を惹き付けることが起点となる。そして、国際的なビジネスを展開する人々が臨界を超えて集まり、地域の中核となって人材の誘致、既存産業の進化、新たな雇用創造といった内発的な成長に繋げていく戦略が必要である。

そのような取組みには、公共的かつ機動的な体制づくりが欠かせない。すなわち、産学官民が一体となった公共的な場(プラットフォーム)において、地域のリーダーシップの下に世界的な英知を結集していくために、戦略の策定から実施までを一貫して行う社会的な実務専門(プロフェッショナル)集団を置く体制づくりである。

福岡地域戦略推進協議会は、そのような体制として設置された。私達は、責任を持ってこの場に参画し、個々の利害を超えて全体最適の視点から、徹底した地域診断を踏まえて戦略オプションを抽出し、優先順位を付けた上で、相互に連携しつつスピード感を持って戦略を実行していく。そして、私達は、一つでも多くの関係者がこの場に参画し、福岡の発展のために協働していくことを希求する。この取組みの成果は、福岡の持続的な成長に留まらない。地域に蓄積された戦略の企画推進力を他地域に水平展開することで、九州全体の一体的な発展、ひいては日本全体の成長に繋げていくことが可能である。そして、このような内発的な成長への取組みは世界中で求められており、人材を起点とした新しい地域成長モデルを福岡から世界へと発信することで、人類全体の発展に貢献することを目指すものである。

2011年4月13日

●設立に至る2つの背景

世界の地域づくり

国際地域ベンチマーク協議会(IRBC)

- ・各地域の国際競争力を高めることを目的に、指標やまちづくり成功例の共有を行っている国際ネットワーク。
- ・産学官の実行委員会により、2010年の年次総会を福岡で開催。

日本の新しい公共

官民連携主体による地域づくり推進事業

- ・法的支援制度の構築を行う上で、国の対等なパートナーとして選定(国土交通省2011～2012年度)
- ・『官』の「縦割り」、「横割り」の制約や「民」の政策決定過程への関与を克服

交流の活性化による“質”を重視した成長

雇用
+6
万人

GRP
[域内総生産]
+2.8
兆円

人口
+7
万人

達成目標(2010年>>2020年)

食部会

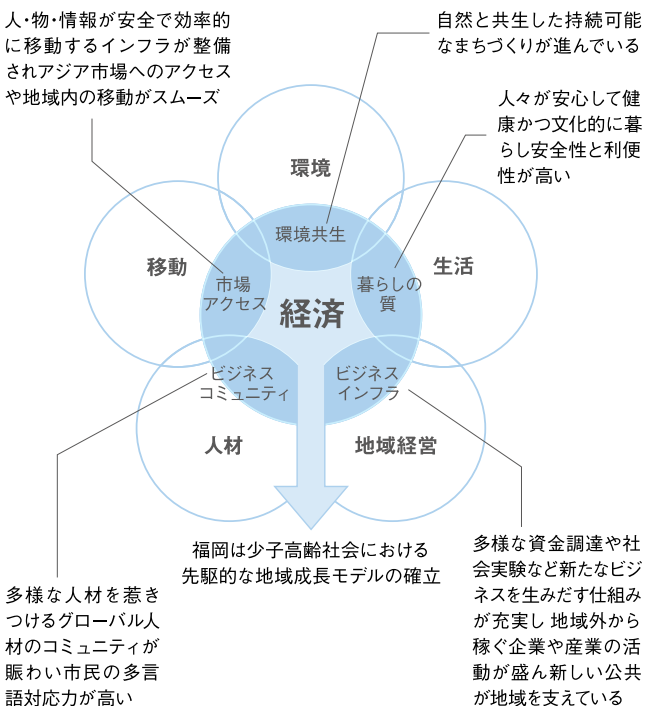
ブランド・ネットワーク

環境部会

福岡版スマートシティ構想

将来像

- 国際競争力の強化により、日中台韓のビジネス交流・開発・営業拠点として「東アジアのビジネスハブ」を目指す。
- その将来像を、持続的な経済を含む6つの要素を包含した「福岡版スマートシティ」として定義する。



福岡都市圏は国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域を目指す東アジアのビジネスハブとして日本・中国・韓国・台湾などのビジネスの交流・開発・営業の拠点となり多様な人材が訪れ働き暮らしている

MESSAGE

メッセージ



会長 松尾新吾

一般社団法人 九州経済連合会名誉会長
(九州電力株式会社相談役)

福岡・九州の発展を支える中核機能を担う

第1期における福岡都市圏のビジョンづくり際に際し、地元の産学官民の関係者が参画して、地域の課題として16のテーマを洗い出し、5つの部会を立ち上げました。そして各部会長の下、時系列を踏まえながら、海外からのヒト・カネを呼び込みことを意識したプロジェクトを段階的に進めています。このような実践的な取り組みは従来に無く、大きな成果です。一連の活動については、国土交通省国土政策局から「官民広域連携制度の構築をする上で参考となる官民連携主

体」との高い評価をいただきました。今後求められる具体的な成果に関しては、イノベーションスタジオ福岡やMICEビューロー、海外向けワンストップサービスなどの事業体となるコンソーシアムに対して、ヒト・モノ・カネをどれだけ呼び込めるかが、大きなカギ、です。行政や国との関係強化も図りながら、同じベクトルで取り組んでいる他の機関・団体との連携を推進していくことで、今後、九州が発展していく上での中核機能を担っていく所存です。



専任アドバイザー 鍋山徹

一般財団法人 日本経済研究所 チーフエコノミスト
地域未来研究センター長

FDC 3年間の活動を振り返って

FDC3年間の活動は、福岡市、そして広域圏、さらには九州全域を見据え、地域経済の実態をデータで把握した上で、10年後の目標を掲げることからスタートしました。その目標を実現するために、部会を立ち上げて、MICEを旗頭にプロジェクトの具体化に取り組んできました。3年間の成果は、地域の一体感がメッセージとして域外に伝わったことです。現状をみると、広域連携や中堅・中小企業の参画、そしてプロジェクトの出口戦略など、課題は多々ありますが、米

国シアトルなど先進地域がそうであるように、事業化に向けた中長期的な粘り強い姿勢が必要です。福岡には、アジアとの近さ、新鮮な食材や温泉など観光資源の豊かさがああります。この強みを活かして、多様な人々が交流する地域へさらに発展していくポテンシャルは大きいのです。既存産業の進化、新たな雇用創出といった内発的な成長に繋げていくために、産学官民が一体となった公共的な場(プラットフォーム)において、具体的な成果をめざします。



事務局長 後藤太一

合同会社 福岡アーバンラボラトリー
代表社員

新しい地域成長モデルを福岡から世界へ

海図なき大海原を突き進んだ怒涛の3年間を振り返ります。「人材を起点とした新しい地域成長モデルを福岡で実現し世界に発信する」という野心的な設立趣意に会員が集まり、全体最適の視点から、スピード感を持って戦略を策定し実行して参りました。この間の成果を3点にまとめます。まず、会員数が倍以上に増え、協働の基盤として成長したこと。次に、国内外の政府や企業へのワンストップ窓口を確立しつつあること。そして、新たな価値を生む事業体や準備組織が組成されたこ

とです。成果を導いたFDCの強みは4つあると考えます。まず、立案した戦略を責任を持って実行していくシンク&ドゥ・タンクであること。次に、世界から人や資本を惹き付ける国際性があること。更に、戦略の骨子が行政計画に位置づけられ、公共政策の担保があること。最後に、市民力を成長の源泉に位置づけ、地域革新の生態系を育てていることです。世界情勢が不確実性を増す中、「福岡から世界へ」という設立趣意に常に立ち返りつつ、FDCは進化し続けて参ります。

PROJECT

部会プロジェクト

地域戦略の推進

2011年度に策定した地域戦略の推進のために5つの部会を2012年度に設置し、部会長のリーダーシップの下で取組むプロジェクトを決定し、プロジェクトリーダーが中心となってフィージビリティ・スタディを行った。2013年度は、予算および競争的資金の獲得状況を踏まえつつ、プロジェクトの事業計画を策定し、事業化を図った。

環境部会 27団体

ミッション

福岡都市圏を舞台に福岡の強みを活かしたスマートシティ・モデルを先行確立して、域外に向けたソリューションを移出する

部会目標

- ・福岡版スマートシティ・モデルの構想および企画の確立
- ・福岡版スマートシティ・モデルの国内外での認知の向上
- ・九州全体での移出型の新しい環境産業の創出、集積

人材部会 11団体

ミッション

福岡が国際競争力・雇用創出力を高めて九州を牽引していくために、世界とつながった多様な人材の育成と活躍できる環境づくりを行う

部会目標

- ・多様な人材が活躍する国際的な社会づくり
- ・質の高い雇用を創出するグローバルな企業の育成・立地
- ・国際的なビジネス・活動に関わる市民の増加

観光部会 20団体

ミッション

九州全体の交流人口増加と集客交流産業の強化に向けて、福岡都市圏のMICE拠点およびゲートウェイとしての機能を強化する

部会目標

- ・目的地としての九州の国際的認知の向上
- ・インバウンド・アウトバウンドの双方の交流の活性化
- ・九州の集客交流にとっての福岡都市圏のゲートウェイ機能拡充

食部会 14団体

ミッション

「Food EXPO in FUKUOKA」の開催により産業振興と集客交流の拡大を実現し、福岡・九州の重要な産業である「食」を通じて地域全体の経済成長を図る

部会目標

- ・福岡・九州の食文化の国際的な高品質ブランド化
- ・九州の食産業の高付加価値化と移住型への段階的な引上げ
- ・観光や都市再生など他テーマとの相乗効果の最大化

都市再生部会 34団体

ミッション

持続的な成長を支える質の高い街づくりと、都市マネジメントの移出産業化のために、福岡都心に投資を呼び込むための枠組みを策定する

部会目標

- ・経済産業活動と市民の暮らしを支える、質の高い街づくり
- ・人、企業、投資を呼び込む枠組みづくり
- ・街づくりの移出産業化(街づくりノウハウの域外輸出)

会員の部会参加状況(2014年3月末日現在)

観光部会

伊藤忠商事 九州支社/九州経済連合会/九州大学/九州旅客鉄道/コングレ九州支社/新日本製薬/JTB九州/西日本新聞社/西日本鉄道/日本コンベンションサービス/日本電気九州支社/福岡空港ビルディング/福岡県/福岡市/福岡商工会議所/富士通/ホークスタウン/三井物産/三菱東京UFJ銀行/ラブレエム国際放送

環境部会

九州先端科学技術研究所/九州大学/九州通信ネットワーク/九州電力/九州旅客鉄道/九電工/KDDI/西部ガス/産学連携機構九州/新出光/正興電機製作所/都市再生機構九州支社/西日本シティ銀行/西日本鉄道/西日本電信電話福岡支店/日本電気九州支社/パイプドビッツ

/日立製作所九州支社/福岡銀行/福岡県/福岡市/富士通九州支社/ペーパレススタジオジャパン/ミサワホーム総合研究所/三井物産九州支社/三菱電機九州支社/三菱東京UFJ銀行

食部会

九州経済連合会/九州大学/コカ・コーラウエスト/西部ガス/ダズリング・ナイン/トクスイコーポレーション/西日本新聞社/日本電気九州支社/福岡県/福岡市/福岡商工会議所/ふくや/三井物産九州支社/三菱東京UFJ銀行

人材部会

九州経済連合会/九州先端科学技術研究所/九州大学/産学連携機構九州/JTB九州/正興電機製作所/西日本新聞社/日本電気九州支社/

福岡県/福岡市/ラブレエム国際放送

都市再生部会

伊藤忠商事九州支社/九州大学/九州電力/九州都市整備センター/九州旅客鉄道/九電工/小堀哲夫建築設計事務所/JR博多シティ/清水建設九州支店/正興電機製作所/総合メディカル/大成建設九州支店/都市再生機構九州支社/豊川設計事務所/西日本シティ銀行/西日本新聞社/西日本鉄道/日本電気九州支社/パイプドビッツ/パシフィックスタージャパン/日立製作所九州支社/福岡銀行/福岡空港ビルディング/福岡県/福岡市/福岡商工会議所/福岡地所/福岡リアルティ/福住/ペーパレススタジオジャパン/三井住友銀行/三井住友建設九州支店/三井物産九州支社/三菱東京UFJ銀行

観光部会

部会長メッセージ



部会長 **石原進**

一般社団法人九州経済連合会 副会長

MICE振興に力を合わせて、福岡を日本の成長の拠点に

FDCでは、各部会がMICEを機軸に様々な取組みを進めています。福岡はMICEに大変適した都市です。成長著しいアジア諸国に近く、国内外や九州域内との交通の便もよく、ウォーターフロントを持っていることも魅力です。アジアの都市との競争に勝つためにも、MICEを機軸にコンセプトを構築して、福岡を磨いていくことが重要です。観光部会で検討したMICEビューローも発足しますし、MICEの振興に向けてみんなが力を合わせ、福岡を日本の成長の拠点にしていきましょう。

ミッション

九州全体の交流人口増加と集客交流産業の強化に向けて、福岡都市圏のMICE拠点およびゲートウェイとしての機能を強化する

部会目標

- 目的地としての九州の国際的認知の向上
- インバウンド・アウトバウンドの双方の交流の活性化
- 九州の集客交流にとっての福岡都市圏のゲートウェイ機能拡充



副部会長

山下真輝

株式会社ジェイティービー
観光立国推進担当マネージャー

福岡らしい「みんなが集う」仕組みで事業推進短期間でグローバルMICE戦略都市の選定やMICEビューローの立ち上げなどをスピーディーに成し遂げました。今回、行政による担当部署の新設や予算計上を踏まえて、戦略的パートナーである民間サイドがMICEビューローへのヒト・カネの投資を決断するという理想的な展開でした。一連の活動を通じて、「みんなが集う場」という、福岡らしい仕組みが出来上がったと思います。今後、MICEの開催件数や経済効果などの成果をしっかりと出していながら、FDCが掲げる「東アジアのビジネスハブ」の実現を目指していきたいと考えています。



プロジェクトリーダー

横山達男

西日本鉄道株式会社
都市開発事業本部部長

プロジェクトの事業会社化に尽力
観光部会において奇跡的なスピードでプロジェクトを実現できた原動力は部会メンバーの本気度であり、FDC事務局の努力の賜物だと思います。また行政の取り組みが年度単位で先延ばしすることなく、意欲的に進めた結果、幾つもの快挙や奇跡を起こしました。「なぜ観光部会は皆、あんなに熱心なのか」——よく聞かれる問いの答えは、「関わる者が観光部会の大きさを確信している」からです。4月1日から新たにスタートするFDCの第2期ではMICEビューローの一刻も早い事業会社化が重要であり、事業スキームの構築に尽力していきます。



プロジェクトリーダー

吉田宏幸

福岡市経済観光文化局
観光コンベンション部
MICE推進課長

産学官民連携でMICEビューローを実現
これまでのDMP (Destination Marketing / Management Platform) 構想を踏まえて、この具体的な姿を産学官民の関係者が一堂に会して議論してきました。すごいスピードで4月からはMICEビューローがスタートします。検討から実行への移行には大きな決断を伴います。決断を促したのは、まさしくこの部会のおかげがあったからだと考えます。しかしこれからが本番です。明確に掲げた目標(2020年:国際基準で国際会議50件開催)の実現には、これまでの何倍もの実行が必要です。産学官民オール福岡の力で国際レベルのMICE都市づくりが進化します。さあ踏み出しましょう!

2012年度プロジェクト

- ▶ 福岡都市圏のMICE戦略のストーリーと行動計画の策定
- ▶ MICE振興プラットフォームの事業内容と収益構造の提示
- ▶ MICE振興に必要な施設整備に関するオプション提示と評価

2013年度プロジェクト

- ▶ MICE都市力向上プロジェクト
 - ・地域で狙うMICEのターゲット設定
 - ・MICE都市力向上のための関係者ネットワーク構築
 - ・MICE啓発 (MICE都市間競争の理解促進等)
- ▶ DMP構築プロジェクト
 - ・MICEの誘致・受入ワンストップ体制づくり



ウォーターフロントゾーンのMICE施設

※「MICE」とは……

企業等の会議 (Meeting)、企業等が行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどを総称したものだ。

これまでの実績と成果、そして今後の取組み

第1期 (2011～2013年度) 実績と成果

・MICE戦略とDMP構想の策定
 ・福岡都市圏における中長期のMICE施設整備のあり方についての見解提示

福岡市が観光庁の『グローバルMICE戦略都市』に選定
 2013年6月に観光庁公募の「グローバルMICE 戦略都市」に福岡市が東京都、横浜市、京都市、神戸市とともに全国5都市の一つとして選定された。この事業はMICE誘致のポテンシャルが高い都市を選定して、国が集中的な支援や都市の自立的な取組を促進するもので、福岡市におけるMICE機能の集積やこれまでのコンベンション開催の実績等に加えて、FDCによる産学官民のMICE連携戦略が高い評価を受けた。

『MICEビューロー』(仮称) の発足

FDCのDMP構想を受けて、MICE推進の専門的ワンストップ体制として、2014年4月から (公財) 福岡観光コンベンションビューロー内に『MICEビューロー』(仮称) が設置・運営されることになった。その誘致活動により大きな経済波及効果を図るほか、国内外から来福するMICE参加者と地域企業等とのビジネスマッチングにより、イノベーション・ビジネス機会を創出することを目指している。

推進上の課題と対応

国際競争に勝てる MICEマーケティング体制の整備

- ・シドニー・メルボルン・コペンハーゲンのMICE事情を現地調査し、DMPの設計に反映
- ・ターゲット検討に資する調査をシンクタンクに委託

多様なステークホルダーの巻き込み

FUKUOKA地域サミット等のシンポジウムや勉強会の開催

ソリューション提案力のある人材獲得と育成

国内外のMICE専門人材育成プログラムの情報収集

2014年度の取組み

■『MICEビューロー』(仮称) に対する支援

- ・MICE関係者の協力関係拡充支援
- ・国際シティセールス活動との連携
- ・他部会との連携

■MICEの広域連携とインバウンド対応力強化

MICEを起点とした、九州の集客交流の活性化支援

環境部会

部会長メッセージ



部会長 **安浦寛人** 国立大学法人 九州大学 理事 副学長

スマートシティの社会情報基盤環境

21世紀の都市間競争を勝ち抜くための社会情報基盤をいち早く整備し、アジアのリーダー都市を目指した都市環境を構築する方向で、調査・企画やパートナー企業とのネットワーク作りに取り組みました。「行きたい、住みたい、働きたい。アジアの交流都市・福岡」にふさわしい文化環境、生活環境、就労環境を情報通信技術を核として構築していきたいと思えます。多様性を維持しつつ、持続可能な活力ある発展ができる都市の環境整備をMICEを中心に検討し、国内初の実証実験や事業化に取り組んでいます。

ミッション

福岡都市圏を舞台に福岡の強みを活かしたスマートシティモデルを先行確立して、域外に向けたソリューションを移出する

部会目標

- 福岡版スマートシティ・モデルの構想および企画の確立
- 福岡版スマートシティ・モデルの国内外での認知の向上
- 九州全体での移出型の新しい環境産業の創出、集積



副部会長
プロジェクトリーダー

前田真

国立大学法人 九州大学
産学官連携本部 副本部長

福岡版スマートシティへの方向性を打ち出す

福岡版スマートシティの構築を目標に掲げ、3つの分科会にて調査・企画・実践に取り組み、その方向性を打ち出すことができました。スマートシティのあり方については、市民サービスの向上も含めて取り組んでいます。その構築は、社会システム全体を俯瞰しながら、様々な切り口での状況を十分に把握した上で計画を立案・行動することが重要になっていきます。今後は、実証実験等を重ね、ビジネスインフラ、より住みやすい環境の整備に向けて具体的なプロジェクトを推進していく考えです。

スマートエネルギー分科会

三菱電機株式会社

エネルギーインフラの改革・改善を企画提案

省エネシステムに関する電力供給制御システムを持つ三菱電機の協力を得て、電力供給の最適化を行うクラウドシステムの活用や、地域単位での電力の高圧-低圧変換システムを行政に企画提案しました。既存のエネルギー供給インフラを担う公益企業や行政インフラ企業と今後も対話を重ね、水素社会も視野に入れたエネルギーのスマート化に取り組んでいきます。

スマートモビリティ分科会

株式会社日立製作所

人流や交通流で都市を把握、ビジネス創造へ

人や交通の流れで都市を把握し、サービスやビジネスへの反映を目指して、日立製作所と活動しました。スマートフォンでの人流分析では、日本でも先進的な取組みとして交通事業者のビッグデータを活用しました。更に産学官民共同でスマートモビリティ社会ビジョンを検討しました。今後は都市再生部会や食部会との連携プロジェクトも推進します。

グローバルビジネス／シティ分科会

富士通株式会社

独自のスマホアプリでMICE支援

競争的資金獲得のため、観光庁、日本政府観光局へのロビー活動を富士通を中心に行ってきました。また、食部会との連携で“食の都ふくおか2014”にてスマホアプリを活用してマーケットデータの収集、分析を行いました。今後は同アプリを手始めとして、MICEと連携し来場者支援やデータ収集に活用する方針です。

2012年度プロジェクト

▶ 福岡版スマートシティ構想の検討

- ・基本構想および4施策テーマ(スマートモビリティ/スマートエネルギー/グローバルビジネス/グローバルシティ)の設定と各分科会の設置
- ・競争的資金調達のリサーチおよび体制構築の検討
- ・構想を支えるビッグデータの企画

▶ 既存プロジェクトへの参画と実証実験の企画・実践

ふくおか見える化プロジェクト(戦略的情報データベースおよびインフラ構築)/スマートモビリティアジア2012福岡/V-Lowマルチメディア放送実証実験/伊都ユニバーシティアベニュー

2013年度プロジェクト

▶ スマートモビリティ

- ・福岡スマートモビリティ社会ビジョン検討ワークショップの実施
- ・交通連結情報サービスの構築に向けた実証実験の実施

▶ スマートエネルギー

- ・スマートエネルギーモデル構築のための分科会の開催
- ・実証実験実施地域の選定

▶ グローバルビジネス/シティ

- ・組織的コミュニケーション機能構築のための分科会の開催
- ・MICEに対応したアプリケーションを使用した実証実験の実施



福岡版スマートシティ構想イメージ

これまでの実績と成果、そして今後の取組み

第1期(2011~2013年度)実績と成果

「福岡版スマートシティ構想」の策定
モビリティなど社会実証実験の実施
競争的資金獲得準備
スマートモビリティ…交通連結情報サービス実証実験
スマートエネルギー…スマートエネルギーモデルの提案(街区単位での一括高圧受電・再分配)
グローバルビジネス/シティ…多様なステークホルダーとの組織的コミュニケーション機能の構築

推進上の課題と対応

競争的資金の獲得
競争的資金のリサーチおよび獲得に向けた企画提案力の強化
民間研究開発費の獲得
国、自治体並びに民間企業へのロビー活動の強化
事業実施企業の参画
イベント活用による取組内容の周知・理解度の強化・参画呼びかけ

2014年度の取組み

■ オープンデータ基盤の構築支援および検討
「ビッグデータ&オープンデータ研究会 in 九州」の活動との連携
■ 社会実証実験の仕組み化支援
行政およびMICEビューローと連携した、ワンストップ体制の構築支援

■ 他部会とのコラボレーションによるソリューション提供
・交通分野における都市再生部会とのコラボレーションの実施
・都市再生部会との連携によるまちづくり(都市再生部会:ハードやデザイン、環境部会:ソフトやデータ・ICT)
・観光、食部会との連携による各種イベント来場者動向やマーケティングデータの収集、システム提案

食部会

部会長メッセージ



部会長 **中村仁彦** 福岡商工会議所 専務理事

「食」の新たな施策で地域の魅力を高める

食部会では、福岡・九州の重要な産業である「食」を中心とした新たな施策により地域の魅力を高め、「食」を通じた都市ブランドの確立を目指して精力的に活動しています。具体的には、福岡市内中心部とコンベンションゾーンを活用し、一般消費者への物販と事業者間の商談会を同時期に行う「Food EXPO in FUKUOKA」の開催を2014年秋に計画しており、産業振興と集客交流の拡大を通じて地域全体の経済成長を図ることとしています。

ミッション

「Food EXPO in FUKUOKA」の開催により産業振興と集客交流の拡大を実現し、福岡・九州の重要な産業である「食」を通じて地域全体の経済成長を図る

部会目標

- 福岡・九州の食文化の国際的な高品質ブランド化
- 九州の食産業の高付加価値化と移成型への段階的な引上げ
- 観光や都市再生など他テーマとの相乗効果の最大化



副部会長
プロジェクトリーダー

合野弘一

福岡市
経済観光文化局 理事

食のブランド化で九州全体のハッピーを実現

アジアなど海外向け販売や、食の魅力を活かした観光客誘致を目的としたブランド化事業は、福岡の食の魅力を再認識し、販路開拓や産業振興を産学官民で考える機会となりました。ブランド化に向けて実施した留学生・来日外国人対象の試食会で伝統的な加工食品の新たな可能性を見出しました。また、海外の一流シェフが福岡の食材を吟味する招聘事業での評価も高く、宝物、だと実感、食材購買におけるシェフの影響力の大きさも知りました。今後、食のおいしさや安全性に加え、カルチャーやライフスタイルとしての食をテーマに情報発信をしていくことで個々の魅力を面的に広げ、ブランド化を図ります。これまで乱立気味だった活動を整理して、福岡を食の都として、また、九州の食の「ショールーム」、国内外とのゲートウェイとしてプロデュース機能を強化し、九州全体がハッピーとなるよう実現していきます。



プロジェクトリーダー

徳島建征

株式会社トクスイコーポレーション
代表取締役社長

九州広域の食産業クラスター構想の実現へ

福岡都市圏は、福岡はもちろん九州各地からの素晴らしい農業・水産・畜産品が流通し、さらに国内外の有力なマーケットへ向けて食産業を展開するための各種インフラ、環境が整ったたいへん恵まれたエリアです。しかしながら、福岡だけではなく広域での食産業を考えた時、九州全体としての適切な価値を生んでいるのだろうか？という、残念ながら定義が曖昧で、地域や企業がそれぞれの方針で活動しているのが実態です。食にまつわる将来が平穏ではない現在、産学民連携のFDCにおいて福岡から“九州全体の食産業がもっと有機的に連動し、最大の価値を生む仕組み”を構想したことは大きな成果です。今後は九州のショーケース的なBtoBの大規模商談会の開催や事務局機能組成など具体的な行動を通して、実際に九州各地で熱く活動されている方々と連携していきたいですね。

2012年度プロジェクト

▶ **ブランドコンセプト設定**

福岡・九州の食文化の国際的な高品質ブランド化、並びに九州の食産業の高付加価値化と移出型への段階的な引き上げを達成させるべく、地域の差異性を発掘し、域外（九州外）の消費者へ明確に伝えていくものを構築

▶ **企業・関係者ネットワーク**

ネットワーク構築の第一歩として「商流の見える化・最適化」を目指し、大規模催事（B to C）と中型展示商談会（B to B）を同時開催する「Food EXPO in FUKUOKA」を構築



ミシュラン星付ホテルレストランのシェフを香港から招聘し、福岡の食材を視察。著名シェフを媒体としたブランディングを図った

2013年度プロジェクト

▶ **ブランドコンセプト設定**

・海外で評価されているシェフとの連携を強化

▶ **企業・関係者ネットワーク構築**

- ・「食の都ふくおか」企画策定
- ・「Food EXPO in FUKUOKA」企画策定



「福岡の食文化を再発見」をテーマに、福岡の食を一堂に集め、地域の食文化を体験できるイベント「食の都ふくおか2014」を開催

これまでの実績と成果、そして今後の取組み

第1期（2011～2013年度）実績と成果

ブランドコンセプト設定プロジェクト

- ・福岡在住および来訪外国人へのアンケート実施
- ・国際会議出席の外国人を対象にした試食会の開催、アンケート実施

- ・海外からシェフ、バイヤーを招聘し「食」のイメージを抽出
- ・海外（香港）へ食材を持ち込み、試食会を開催、アンケート実施

食に関連した企業・関係者のネットワーク構築プロジェクト

- ・国内外で開催された食イベントの視察および情報収集
- ・企業・関係者ネットワーク構築プロジェクト分科会をベースに「食の都ふくおか2014」実行委員会立ち上げ
- ・「食の都ふくおか2014」（3月21日～23日）および「シェフ招聘イベント」（3月21日）開催

「Food EXPO in FUKUOKA」の企画策定

推進上の課題と対応

食イベント開催による産業振興や集客交流における実効性の確保

企画の精度を高める一方、メディアとの協調などでPR強化を図って、認知の向上と期待感を高めていく

食に関連した産業との連携方法や経済効果などの波及

経済団体の持つネットワークを活用しながら、「食」を通じて地域全体の経済成長に取り組んでいく

食を通じた産業振興や集客交流の拡大などの成果の指標化

部会目標である10年後のGRP押し上げ効果1,200億円の達成に向けて、各種取り組みによる経済効果を数値化していくための考え方や手法などを確立していく

2014年度の取組み

■ **「Food EXPO in FUKUOKA」の実施支援**

Food EXPO in FUKUOKAを契機とした福岡県、九州の食産業関係者のネットワーク強化

■ **MICEビューローとの連携**

- ・自主企画の定期化
- ・MICEクラスターにおける九州の食ショールーム企画への支援

人材部会

部会長メッセージ



部会長 **中村英一** 福岡市総務企画局長

都市圏の成長戦略を`ヨコ串、である人材面から推進

私も人材部会は、《域外に向けて挑戦する環境づくり》《人材の多様性の強化》《革新的・創造的な交流の場づくり》の3つの成長の源泉を再構築すると定めたFDCの成長戦略を推進するため`ヨコ串、といえる「人材」という観点から検討してきました。その中で、第1期(2011~2013年度)においては、「市民の多言語対応力強化」や「イノベーションスタジオ福岡」といったプロジェクトを検討し、具体的な形にしていくことを常に意識しながら進めてきました。今後も、国際競争力を持った都市圏づくりを人材面から推進するため、部会員の皆様との連携を強化しながら、一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

ミッション

福岡が国際競争力・雇用創出力を高めて九州を牽引していくために、世界とつながった多様な人材の育成と活躍できる環境づくりを行う

部会目標

- 多様な人材が活躍する国際的な社会づくり
- 質の高い雇用を創出するグローバルな企業の育成・立地
- 国際的なビジネス・活動に関わる市民の増加



副部会長

加藤暁子

株式会社西日本新聞社
客員編集委員

市民力の高さを活かしたグローバル化を図る大規模な国際会議・大会の開催時に実施した「フレンドリー福岡キャンペーン」の通訳ボランティアガイドの募集には、約400人の応募がありました。現在、彼らをデータベース化した人材バンクの構築の検討を進めているところです。いま、Uターンも含めて福岡に優秀で専門的な人々が集まって来ています。彼らは地域の国際競争力の強化を担う人材です。今後、「イノベーションスタジオ福岡」を交流拠点に海外の都市・地域とつながることを通じて、市民レベルでのグローバル化を図っていきたくと考えます。



プロジェクトリーダー

光山裕朗

福岡市 総務企画局
企画調整部長

市民が`主人公、の福岡型イノベーションを推進福岡の地域特性を人材という視点から考えてみると、起業家、クリエイター、NPOなどの多彩なコミュニティが充実し、活発な活動が行われているといった市民力の高さや、まちがコンパクトで、顔が見えやすく、人と人がつながりやすいといった特徴があげられると思います。`福岡らしさ、を活かしながら、生活者視点に立った新しいイノベーション創出のモデルを構築していく取り組みが「イノベーションスタジオ福岡」です。このような福岡モデルのイノベーションを推進し、世界から創造性ある人材を惹きつけるような地域づくりの一端を担えればと考えています。



アドバイザー

田村大

株式会社リ・パブリック
共同代表

世界でもっとも輝くイノベーション都市へ誰もが「なるほど!」とひざを打つアイデアで、世界を変えていく起業家たち。世界中から集まる才能豊かな人材を求めて、イノベーションを志向する企業が立ち上げる拠点やプロジェクトの数々。そして常に新しいライフスタイルが生まれ続け、並み居る世界のイノベーション・シティが熱いまなざしを注ぐ都市文化――。2020年、福岡はこんな街になっています。オリンピックが東京にやってくる年、世界が日本に向けるもう一つの視線は、福岡に降り注ぐことでしょう。そのための一歩を踏み出します。

2012年度プロジェクト

- ▶ グローバル・コネクト・ハブ構想の形成に向けたモデル事業の実施
- ▶ 市民の多言語対応力強化のためのフレンドリー福岡キャンペーン実施
- ▶ 福岡の働く女性を支援する取組みの現状把握



フレンドリー福岡キャンペーンでは市民ボランティアが英語でおもてなし

2013年度プロジェクト

- ▶ 地域の国際競争力強化に向けた人材拠点「イノベーションスタジオ福岡」の設立準備

「グローバル・コネクト・ハブ」構想の実現として、地域の国際競争力強化を担う人材の拠点づくりへの取り組み
 実施機関並びに体制の検討、事業計画／実施体制の決定
 開設準備および運営体制の準備、試行イベントの実施、事業実施に向けた人材発掘ネットワークの構築
 福岡の多様な人材と域外の人材が共にイノベーションを創出する仕組みづくり



コペンハーゲンからゲストを招き、市民発イノベーションをテーマに討論を行った

これまでの実績と成果、そして今後の取組み

第1期（2011～2013年度）実績と成果

イノベーションスタジオ福岡の構築

グローバル・コネクト・ハブ構想の形成に向けたモデル事業の実施と検証を経て、福岡の多様な人材と域内外の企業や海外都市が共にイノベーションを創出していく「イノベーションスタジオ福岡」の企画・検討へと発展。2014年度の本格実施に向けた具体的な仕組みやプログラムの検討を行うとともに、世界のイノベーション先進都市の連携を図るため、コペンハーゲンとの共同プロジェクト化を進めた。

フレンドリー福岡キャンペーンの実施

2012年の四大国際コンベンションに対応した市民参加キャンペーンを企画し、外国人来訪者を英語でもてなす市民ボランティアを組織し、活躍の場を提供するとともに、ラジオ局とタイアップした英語カフェなどを実施。市民ボランティアには400人を超える方が登録した。

推進上の課題と対応

「市民発イノベーション創出」という新しい概念の理解・浸透

地域サミットにおける市民向けトークイベント、福岡の多様な人材や市内外の企業、海外都市を交えた試行プロジェクトの実施などにより、概念の理解・浸透に取り組んだ。

フレンドリー福岡サポーターの活動の継続性

サポーター登録者へのメールアンケート実施と名簿の整理を行った。

2014年度の取組み

- 起業家セーフティネットの検討
- 市民の力を活用する人材バンクづくりと市民の多言語対応力強化
- 「イノベーションスタジオ福岡」の進捗確認と側面支援

都市再生部会

部会長メッセージ



部会長 **橋田 紘一** 福岡経済同友会 副代表幹事

「福岡都心再生戦略」を策定し、3エリアの「先導プロジェクト」を検討
第1期都市再生部会では、2050年までに実現すべき福岡都心の将来像とプロセスを示した「福岡都心再生戦略」を策定し、博多周辺、天神・渡辺通、ウォーターフロント3エリアの開発を推進する「先導プロジェクト」の検討を行いました。第2期では、3エリアの「先導プロジェクト」と併せ、都心部の交通アクセス改善や水辺空間の整備、広域的な視点による街づくりなど、福岡都市圏における質の高い街づくりや人・企業・投資の呼び込みに向けた「実現性・実行性」あるプロジェクトの推進に取り組んで参ります。

ミッション

持続的な成長を支える質の高い街づくりと、都市マネジメントの 移出産業化のために、福岡都心に投資を呼び込むための枠組みを策定する

部会目標

- 経済産業活動と市民の暮らしを支える、質の高い街づくり
- 人、企業、投資を呼び込む枠組み作り
- まちづくりの移出産業化（まちづくりノウハウの域外輸出）



副部会長
プロジェクトリーダー
ウォーターフロント分科会
藤永 憲一

株式会社九電工
代表取締役副社長

福岡都心部の新たな「拠点」形成に 向けた検討を実施

ウォーターフロント分科会では、博多・中央ふ頭エリアについて、当エリアの持つMICE・ターミナル機能の更なる強化をベースに、都心の海辺という立地を活かした魅力あるエリアづくりについて検討して参りました。この取り組みを受け、福岡市が関係部局を総括する部署を設置し、再整備の方向性について検討を開始したことは、分科会として一定の成果を出せたものと考えております。今後につきましても、当エリアの魅力向上に向け、部会の場で対応して参ります。



副部会長
プロジェクトリーダー
天神・渡辺通分科会
高崎 繁行

西日本鉄道株式会社
取締役常務執行役員

都市間競争に勝つための都心づくり

天神は、アジアの中核都市に相応しい都心として、アメニティ性とクリエイティブな機能を備えた再整備を進め、都市全体の魅力を高めていこうと考えています。そのためには、民間の再開発だけでなく、都市インフラや公共空間の整備も不可欠であり、また、アジアでの都市間競争に打ち勝つためには、スピードを上げて取り組んでいくことが重要です。博多、ウォーターフロントとの連携も考え、会員の皆様の叢智を結集しながら、これからも魅力ある都心づくりに取り組んで参りたいと考えています。



副部会長
プロジェクトリーダー
博多周辺分科会
本郷 譲

九州旅客鉄道株式会社
専務取締役

住んでよし、働いてよし、訪れてよし

都市再生部会で策定した「都心再生戦略」に基づき博多周辺エリアの現状と課題を再認識することから始め、エリアの将来像をまとめました。博多周辺エリアは駅ビルや交通広場の再整備による先導的な都市拠点を核として、周辺地域の建築物等の建替更新や都市基盤・都市機能強化により、より高次の業務・商業の集積を図ります。また、防災性を重視し、業務・居住等の支援機能が適切に調和する安全・安心かつ歴史的・文化的に優れた「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」のまちづくりを目指します。

2012年度プロジェクト

- ▶ **「福岡都心再生戦略」の策定** 将来像、工程表の策定
- ▶ **都心再生戦略の政策への反映**
福岡都心地域都市再生整備計画への反映／福岡市総合計画等との連携／FDC国際実務研修での交通検討
- ▶ **分科会の設置と推進**
ウォーターフロント、天神・渡辺通、博多周辺の3分科会で個別課題の具現化に向けた時間軸のある行動計画の検討・実施

2013年度プロジェクト

- ▶ **都心再生戦略の進行管理**
福岡市による都市計画マスタープラン改定原案への反映
福岡市による臨港地区分区条例の改正
福岡市によるウォーターフロント再整備検討の着手
- ▶ **都心全体の課題の検討**
都心再生フォーラムなどを通じた事業者・投資家プロモーション
都心公共交通軸の考え方の整理
- ▶ **先導プロジェクトの推進(分科会)**
ウォーターフロント
開発マスタープランの検討用資料の作成／事業者インタビュー(16社)／国内外投資家リレーション／福岡市による再整備の方向性検討に連動した、官民連携方策の検討
天神・渡辺通
まちづくりの方針、方針図案作成／工程表案作成／優先的に取り組むテーマの整理
博多周辺
先進事例調査の開催／開発戦略と工程表の作成(プロジェクト抽出)



(C) Fukuoka D.C. - Freedman Tung + Sasaki Urban Design - Timothy Wells 2013

これまでの実績と成果、そして今後の取組み

第1期(2011~2013年度)実績と成果

「福岡都心再生戦略」の策定
・福岡市による都市計画マスタープラン改定原案への反映
都心再生フォーラムなどを通じた事業者・投資家プロモーション
ウォーターフロント…各種検討・機運醸成／福岡市による再整備の方向性の検討着手
天神・渡辺通…優先的に取り組むテーマ(立体回廊(空中・地上・地下)の整備、魅力的な川沿い空間の整備)の絞り込みと実現に向けた検討の方向性の整理
博多周辺…プロジェクト基本計画の策定／開発戦略の方向性の決定、初動期に取り組むべき戦略の策定と課題等の整理
都心公共交通軸の考え方および今後の取組みの方向性の整理

推進上の課題と対応

開発市場の創造
事業者・投資家プロモーション
企業誘致など
事業環境の整備
機能更新(都市開発、インフラ整備)
計画的な資本の呼び込み
市民啓発など
当事者への支援
行政等における政策立案支援
事業者による事業企画・推進支援など

2014年度以降の取組み

- **開発市場の創造**
- **事業環境の整備** 水辺空間(リバーフロント)など拠点を繋ぐ空間の活性化
- **「福岡市総合交通戦略協議会(仮称)」への参加** 都心再生戦略の反映など
- **他部会観光、環境、食、人材と連携した協議・情報交換(広域展開を視野に)**

International Project & Public Events

国際プロジェクト・公開イベント

▶ 国際実務研修・専門家ワークショップ

欧州、北米、アジアからの実務専門家と、地域変革の意思をもつ産学官リーダーとの対話や協議により、国際的視点からの地域戦略、とりわけ都市開発戦略案を作成する2カ年事業。初回と最終回は専門家ワークショップ、途中2回は国際的に活躍する専門家の指導のもと、国内外から集まった実務家が自らの経験と職能を生かして都市開発戦略案を作成する、地域戦略の担い手育成プログラム(国際実務研修)を実施。成果と過程を公開フォーラムにて発表することによってFukuokaを国内外へ発信しPRを行った。

国際実務研修①

期間:2012年4月13日(金)~20日(金)

テーマ:[魅力的な場所づくり / Placemaking]

参加者:海外6名(オーストラリア2名、オランダ2名、デンマーク2名)、国内7名(福岡市2名、福岡地所、九州旅客鉄道2名、九電工、西日本鉄道)

発表:都市開発戦略フォーラム(4月20日(金) 参加:108名)

国際実務研修②

期間:2012年10月5日(金)~12日(金)

テーマ:[都市交通 / Mobility]

参加者:海外5名(フィンランド、イラン、トルコ、オランダ2名)、国内4名(福岡市2名、西日本鉄道2名)

発表:都市開発戦略フォーラム(10月12日(金) 参加:105名)

専門家ワークショップ①

期間:2011年7月1日(金)~5日(火)

テーマ:[福岡都市圏の都市開発戦略]

地域の都市開発関連分野の実務者と世界で活躍する専門家ら福岡での現地調査、インタビュー、交流を行い、福岡の都市の

課題を分析・抽出。

参加者:ジョン・メーダー(建築家 / Lend Lease Japan, シニアプロジェクトマネージャー)、サリーヌ・ヴェルブ(ランドスケープアーキテクト / Bueau B+B 取締役(当時))、アンドリュ・ディビッドファッサム(都市デザイナー / シンガポール都市開発庁都市計画・デザイン部ディレクター)、ロブ・ヴァンデルヴァイル(交通プランナー / lightrail.nl創業者)

発表:都市開発フォーラム(7月4日 参加:100名)

専門家ワークショップ②

期間:2013年6月5日(水)~7日(金)

テーマ:[2カ年総括、成果発表のためのラウンドテーブル]

参加者:リム・ネオ・チャン(Singapore Centre for Livable Citiesフェロー)、ロブ・ヴァンデルヴァイル(交通プランナー / lightrail.nl創業者)、サリーヌ・ヴェルブ(ランドスケープアーキテクト / S-coop社)、ジョン・メーダー(建築家 / Lend Lease Japan, シニアプロジェクトマネージャー)、マーク・グロードマン(オランダ)

発表:都心再生フォーラム(6月7日(金) 参加:200名)



▶ 市民フォーラム2012

福岡都市圏で生活や経済活動を営む市民や非会員企業・団体向けに地域戦略や事業計画を伝える公開イベント。5つの部会のプロジェクトリーダーなどがパネルディスカッションなどを通じて、各部会の紹介や活動状況を紹介した。

2012年8月23日(木) 会場:レソラNTT夢天神ホール 参加:180名

登壇者:観光部会…山下真輝(株式会社ジェイティービー旅行事業本部観光戦略室観光立国推進担当マネージャー)、環境部会…前田真(九州大学知的財産本部)、食部会検討会…合野弘一(福岡市経済観光文化局理事)、人材部会…加藤暁子(株式会社西日本新聞社社員編集委員)、都市再生部会…後藤太一(FDC事務局長・米国認定都市計画士)、モデルーター…サース恵美子(FDCディレクター)



▶ Fukuoka地域サミット2013

FDCがこれまでの活動や今後の展望を会員、一般市民に報告するとともに、部会(観光・環境・食・人材・都市再生)ごとのセッションを通じ、事業計画やプロジェクトの活動状況、今後の展望を報告した。産学官民が一体となって地域戦略に取り組むことの重要性の確認と共有を行った。

2013年11月5日(火) 会場:ヒルトン福岡シーホークホテル 参加:延881名

主催:福岡地域戦略推進協議会 後援:総務省、経済産業省、国土交通省

協力:We Love天神協議会、九州観光推進機構、博多まちづくり推進協議会、NPO法人福岡建築ファウンデーション(FAF)、福岡テンジン大学、特定非営利活動法人FUKUOKAデザインリーグ、福岡フードビジネス協議会、明星和楽

登壇者:[鼎談 私たちの地域でつくる未来]…堀義人(グロービス経営大学院学長)、塩田真弓(テレビ東京アナウンサー)、鍋山徹(日本経済研究所 地域未来研究センター長) / [MICE誘致を拡大するために必要なこと] 観光部会…山本牧子(MPIジャパンチャプター会長)他4名 / [福岡版スマートシティ構想に向けて] 観光部会…渡辺克也(総務省 大臣官房審議官 情報流通行政局担当)他5名 / [福岡の食の魅力] 食部会…クリスチャン R. ボーダー(ヒルトン福岡シーホーク総支配人)他4名 / [Citizen-Led Innovation - 市民発イノベーションが地域の未来をつくる] 人材部会… Anne Dorthe Josiassen(デンマークデザインセンター最高執行責任者)他4名 / [世界から人を引きつけるFukuokaをつくる] 都市再生部会…佐々木宏幸(FTS Urban Design代表社員)、出口敦(東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻教授)



▶ LLGA (Living Labs Global 社会実験国際賞プログラム)

バルセロナに本部をおき世界49都市、1,000企業とネットワークをもつCitymart.com主催の都市開発ソリューションに関する国際アイデアコンペ。各ホスト地域が掲げたテーマに対して、世界中からアイデアを募集し、ホスト地域は応募者の中から選定した優勝者のアイデアを地域の現場にて時限的に展開する社会実験に取り組むことが義務づけられている。FDCは、福岡の世界へのブランディング活動のひとつとして2年連続参加した。

LLGA 2012:2012年1月~2012年5月「非日常利用者を対象としたバス運行情報のモバイル型提供システム」

LLGA 2013:2012年11月~2013年11月「スマートな国際会議場開催地 - Smart International Conference Destination」



FDC事務局長 後藤太一、LLGA2013福岡賞受賞者 Guidebook社CEO Jeff Lewis氏、福岡観光コンベンションビューロー専務理事 中川伸司氏

From International Stakeholders

海外関係者からのメッセージ

LLGA



Citymart.com 代表取締役 / CEO, Citymart.com

サシャ・ハゼルマイヤー / Sascha Haselmayer

Fukuoka D.C. has in the past years become a key partner in our community of 49 leading global cities, including cities such as Barcelona, San Francisco, London and Paris that show exceptional commitment to innovation, learning, sharing and open decision-processes. Thanks to the professional management and forward looking leadership of Fukuoka D.C., we count Fukuoka among the best performing cities aligning the community's intentions for innovations with a capacity to execute as shown by the recent implementation of the Guidebook.com app within less than 5 months.

We note significant differences among the levels of diligence and alignment brought by global cities to the process, and Fukuoka D.C. has stood out as a professional and committed partner. Further, Fukuoka is a strong leader in building collaborations with cities in the Citymart community, not only assuring that best

practices are shared but the new methods are developed to inspire the next generation city leaders.

FDCはここ数年間で、イノベーション・学習・共有・公開された意思決定プロセスに傑出したコミットメントをする団体として、バルセロナ、サンフランシスコ、ロンドン、パリ等を含む、率先的な49地域から成る私たちのコミュニティの重要なパートナーとなりました。FDCのプロとしてのマネジメントと先見性のあるリーダーシップのおかげで、5カ月足らずでGuidebook社アプリの実証実験が実現できたことで示したように、イノベーションに向けてコミュニティの意思を調整することができる最も実践的な都市のひとつとしても、福岡を挙げるすることができます。我々は、各グローバル都市における勤勉さや協調性の違いに着眼していますが、FDCは中でも際立っています。福岡はこのような成功事例が共有されただけでなく、次世代の地域リーダーを鼓舞するための新しい方法が開発されていることを示す、Citymartコミュニティとの連携を構築する上での力強いリーダーです。

ICCA



国際会議協会 アジア太平洋支部事務局長 / Regional Director Asia Pacific, International Congress and Convention Association

ヌア・アマド・ハミッド / Noor Ahmad Hamid

FDC has been working closely with key stake holders in enhancing sustainable living for the people of Fukuoka. Voice of the community is vital and must never be taken lightly. FDC's initiative will surely make Fukuoka as one of the top liveable city in the world. Congratulations from ICCA on such initiative as we have never seen this been done so systematically in this Asia Pacific region before.

FDCは、福岡都市圏の人々の持続可能な社会を実現するために、キーパーソンたちと密接に協力を重ねてきました。もちろん市民の声も不可欠で、軽視されてはなりません。FDCの先導プロジェクトは、福岡を世界でもトップクラスの住みやすい都市の一つに推し上げることにあります。私たちICCAからは、これまでにアジア太平洋地域では見たことのない、このような率先プロジェクトが体系的に実践されていることにお喜び申し上げます。

Stadslab



欧州都市デザイン研究所所長 / Professor urban strategies director, StadsLab

マーク・グロードマンズ / Marc Glaudemans

During my collaboration with FDC over the last three years I have been impressed by the dedication and focus of this public-private organisation, bringing together local, national and international expertise in a continuous attempt to enhance the economic potential and outlook of the city and to take into account the quality of life for the citizens.

過去3カ年にわたる私たちStadslabとFDCとのコラボレーションにおいて、継続的に経済的潜在力を高めていくという地域目標と、市民の生活の質を重視した地域戦略の実践に向かって地域内外の専門家を引き寄せ、官民協働で献身的に取り組む姿勢に感銘を受けています。

IRBC



国際地域ベンチマーク協議会 事務局、シアトル貿易開発協議会 代表 / co-secretariat, IRBC President, Trade Development Alliance of Greater Seattle

サム・カプラン / Sam Kaplan

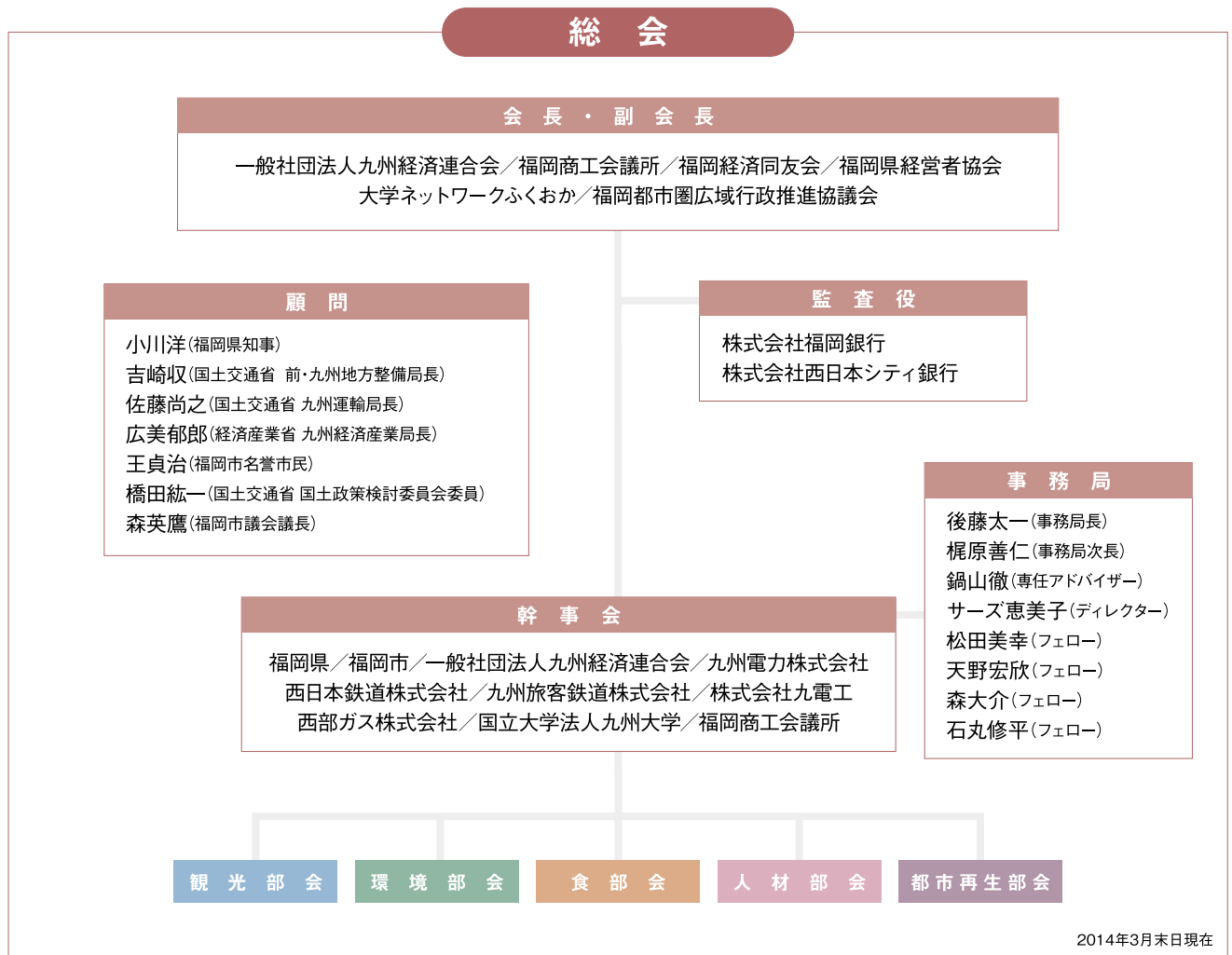
The Fukuoka DC has been a great partner for both the International Regions Benchmarking Consortium and for the Greater Seattle area. Fukuoka DC's key inputs and participation has helped to propel forward the unique consortium that includes urban regions from Asia, Europe and North America. The Trade Development Alliance of Greater Seattle continues to work with Fukuoka DC to find productive partnerships between our two regions. We look forward to working

closely as Fukuoka DC begins its second stage.

IRBC、シアトル貿易開発協議会にとって素晴らしいパートナーであるFDCが、アジアや欧州、北米の地域とのユニークな取り組みに積極的に貢献してきたことで、我々との2つの領域における取り組みが継続しています。次期FDCにおいても密接な関係が継続できることを楽しみにしています。

About Fukuoka D.C.

福岡地域戦略推進協議会の組織



■会員 正・賛助・特別の3種類で構成

正会員(58)

- 株式会社 麻生
- 伊藤忠商事株式会社 九州支社
- 公益財団法人九州先端科学技術研究所
- 国立大学法人九州大学
- 九州通信ネットワーク株式会社
- 九州電力株式会社
- 株式会社九州都市整備センター
- 九州旅客鉄道株式会社
- 株式会社九電工
- KDDI株式会社
- コカ・コーラウエスト株式会社
- 株式会社小堀哲夫建築設計事務所
- 株式会社コングレ 九州支社
- 西部ガス株式会社
- 株式会社産学連携機構九州
- 株式会社JR博多シティ
- 株式会社JTB九州
- 清水建設株式会社 九州支店
- 株式会社新出光
- 新日本製菓株式会社
- 株式会社正興電機製作所
- 総合メディカル株式会社
- 大成建設株式会社 九州支店
- ダズリング・ナイン株式会社
- 株式会社トクスイコーポレーション
- 独立行政法人都市再生機構 九州支社
- 株式会社豊川設計事務所
- 株式会社西日本シティ銀行
- 株式会社西日本新聞社
- 西日本鉄道株式会社
- 西日本電信電話株式会社
- 日本コンベンションサービス株式会社
- 日本電気株式会社 九州支社
- 株式会社バイブドビッツ
- パシフィックスタージャパン株式会社
- 株式会社日立製作所 九州支社
- 合同会社福岡アーバンラボラトリー
- 公益財団法人福岡アジア都市研究所
- 株式会社福岡銀行
- 福岡空港ビルディング株式会社
- 福岡県
- 福岡市
- 福岡地所株式会社
- 福岡商工会議所
- 株式会社福岡リアルティ
- 株式会社福住
- 株式会社ふくや

- 富士通株式会社 九州支社
- ペーパレススタジオジャパン株式会社
- 株式会社ホークスタウン
- 株式会社松本組
- 株式会社ミサワホーム総合研究所
- 株式会社三井住友銀行
- 三井住友建設株式会社 九州支店
- 三井物産株式会社 九州支社
- 三菱電機株式会社 九州支社
- 株式会社三菱東京UFJ銀行
- ラフエフェム国際放送株式会社

特別会員(6)

- 一般社団法人九州経済連合会
- 大学ネットワークふくおか
- 福岡経済同友会
- 福岡県経営者協会
- 福岡市自治協議会等7区会長会
- 福岡都市圏広域行政推進協議会

賛助会員(22)

- オリックス株式会社
- 株式会社学生情報センター
- 鹿島建設株式会社 九州支店

- 公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構
- 九州リアルエステート株式会社
- 株式会社玄海キャピタルマネジメント
- JR九州高速船株式会社
- 住友不動産株式会社
- 株式会社大広九州
- 株式会社竹中工務店 九州支店
- 株式会社電通九州
- 株式会社東京証券取引所
- 鳥栖市
- 株式会社西鉄シティホテル
- 株式会社日本政策投資銀行 九州支店
- 株式会社ニューオータニ九州
- 株式会社ファビルス
- 学校法人福岡大学
- 株式会社ホテルオークラ福岡
- 株式会社ホテル日航福岡
- 三井不動産株式会社 九州支店
- 三菱商事株式会社 九州支店

合計:86
2014年3月末日現在

Fukuoka D.C. History

福岡地域戦略推進協議会の歴史

時期	名称	主体	
2011年	7月1日～5日	専門家ワークショップ①	福岡地域戦略推進協議会
	7月6日	国土交通省による「平成23年度官民連携主体による地域づくり推進事業」に選定	
	9月8日	地域戦略フォーラム	福岡地域戦略推進協議会
	9月20日～22日	国際地域ベンチマーク協議会(IRBC)2011第4回年次会議	IRBC
	11月13日	地域戦略サミット	福岡地域戦略推進協議会
	11月17日	公開シンポジウム「産学官のパートナーシップで進める地域戦略」	福岡地域戦略推進協議会
2012年	11月28日	専門アドバイザー会議(地域戦略骨子検討)	
	2月21日	「特定都市再生緊急整備地域」指定にともなう合同説明会	福岡地域戦略推進協議会、福岡市都市住宅局
	4月	5つの部会立ち上げ	
	4月13日～20日	国際実務研修プログラム①「魅力的な場所づくり」	福岡地域戦略推進協議会、欧州都市デザイン研究所(Stadslab)
	4月20日	都市開発戦略フォーラム「Placemaking in the Heart of Fukuoka」	福岡地域戦略推進協議会、欧州都市デザイン研究所(Stadslab)
	4月25日	地域戦略を策定	
	7月3日	国土交通省による「平成24年度官民連携主体による地域づくり推進事業」に選定	
	8月23日	市民フォーラム2012	福岡地域戦略推進協議会
	9月6日	シンガポール公益事業庁(PUB)の福岡市「再生水利用下水道事業」視察	福岡地域戦略推進協議会
	10月5日～12日	国際実務研修プログラム②「都市交通とモビリティ」	福岡地域戦略推進協議会、欧州都市デザイン研究所(Stadslab)
	10月12日	都市開発戦略フォーラム「Mobility in Smart City "Fukuoka"」	福岡地域戦略推進協議会、欧州都市デザイン研究所(Stadslab)
	2012年11月～2013年5月	LLGA2012(Living Labs Global Award)	Living Labs Global 共催:オラクル、The Climate Group
	11月6日	オランダ王国大使と総領事との面談	
	11月27日～30日	国際地域ベンチマーク協議会(IRBC)2012第5回年次会議	IRBC
2013年	2月28日～3月6日	スマホを使ったパーソントリップ調査実証実験	福岡地域戦略推進協議会 環境部会 スマートモビリティ分科会
	3月22日	クリエイティブ・シェア・カンファレンス	福岡地域戦略推進協議会
	6月5日～7日	専門家ワークショップ②	福岡地域戦略推進協議会、欧州都市デザイン研究所(Stadslab)
	6月7日	都心再生フォーラム～世界から人と投資を呼び込む福岡の都心再生～	福岡地域戦略推進協議会、特別後援:オランダ王国総領事館
	6月26日	福岡市第3委員会での経済観光文化局による「福岡市のMICE機能強化の方向性について」報告	
	6月28日	「グローバルMICE戦略都市」に福岡市選定	観光庁
	6月28日	「博多港の臨港地区内区分における構築物の規制に関する条例」改正	
	7月25日	LLGA2013報告会「都市ソリューション開発と社会実験」	福岡地域戦略推進協議会
	9月11日	福岡市と連名で国家戦略特区にアイデア提案	
	10月1日	福岡市ウォーターフロント再整備推進準備室新設	
	10月1日	日立イノベーションフォーラム講演	株式会社日立製作所(福岡地域戦略推進協議会環境部会)
	2012年11月～2013年11月	LLGA2013(Living Labs Global Award)	Living Labs Global 共催:オラクル、The Climate Group
	11月5日	Fukuoka地域サミット2013「産学官民一体で取り組む成長戦略」	福岡地域戦略推進協議会
	2014年	12月18日	「ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の方向性」の検討について福岡市議会報告
1月23日～1月30日		「FDC2013 福岡・人の流れ調査実験」	福岡地域戦略推進協議会 環境部会スマートモビリティ分科会
2月22日・23日		"Citizen-led Innovation - Pilot Project : 障がいのある子どもの境界をリデザインする"	福岡地域戦略推進協議会
3月21日～23日		食の都ふくおか2014	"食の都ふくおか2014"実行委員会(福岡市、福岡商工会議所)
			福岡地域戦略推進協議会、西日本新聞社、他)
3月28日		国家戦略特区に福岡市指定	国家戦略特区諮問会議(議長 安倍晋三首相)

2011年度会計収支決算 (2011年4月～2012年3月) 2012年度会計収支決算 (2012年4月～2013年3月) 2013年度会計収支決算 (2013年4月～2014年3月)

勘定科目	予算	実績	
収入の部			
会費	¥10,000,000	¥11,200,000	※1
協賛金等	¥130,000,000	¥108,659,052	
民間拠出	¥50,000,000	¥45,000,000	
行政拠出	¥50,000,000	¥49,700,000	
国土交通省補助金等	¥30,000,000	¥13,959,052	
受取利息	-	¥3,936	
雑収入	-	¥352,338	
収入合計	¥140,000,000	¥120,215,326	
事業費	¥115,125,000	¥95,669,865	
人件費	¥50,000,000	¥47,129,250	
直接経費	¥65,125,000	¥48,540,615	
データベース構築・管理	¥4,000,000	¥3,295,000	
地域戦略の検討	¥41,125,000	¥33,064,721	
地域戦略担い手人材の育成	¥8,000,000	¥2,398,917	
パブリックリレーションズ	¥10,000,000	¥2,177,550	
その他経費	¥2,000,000	¥7,604,427	※2
管理費	¥23,875,000	¥18,652,800	
事務所運営費	¥5,500,000	¥2,612,500	
事務所賃料・共益費	¥4,500,000	¥2,172,700	
ICT機器・リース料	¥1,000,000	¥439,800	
組織管理費	¥18,375,000	¥16,040,300	
予備費	¥1,000,000	¥0	
支出合計	¥140,000,000	¥114,322,665	
次年度繰越額	¥0	¥5,892,661	

※1:正会員34社、賛助20社 / ※2:印刷費、通信費等

勘定科目	予算	実績	
収入の部			
会費	¥15,000,000	¥14,450,000	※1
協賛金等	¥115,417,788	¥120,260,683	
民間拠出	¥45,000,000	¥45,000,000	
行政拠出	¥50,000,000	¥58,700,000	
国土交通省補助金等	¥14,500,000	¥10,668,022	
2011年度繰越金	¥5,917,788	¥5,892,661	
受取利息	-	¥6,470	
雑収入	-	¥108,945	
その他収入(WF分科会活動費)	-	¥4,500,000	
収入合計	¥130,417,788	¥139,326,098	
事業費	¥113,000,000	¥99,681,846	
人件費	¥48,000,000	¥43,099,410	
直接経費	¥65,000,000	¥56,582,436	
部会支援等	¥45,000,000	¥40,617,474	※2
マーケティング等	¥12,000,000	¥6,429,500	
地域戦略担い手人材の育成	¥3,000,000	¥1,723,100	
パブリックリレーションズ	¥2,000,000	¥567,553	
その他経費	¥3,000,000	¥7,244,809	※3
管理費	¥16,500,000	¥16,390,000	
事務所運営費	¥2,500,000	¥2,640,000	
事務所賃料・共益費	¥1,000,000	¥2,640,000	
ICT機器・リース料	¥1,500,000	¥0	
組織管理費	¥14,000,000	¥13,750,000	
予備費	¥917,788	¥0	
支出合計	¥130,417,788	¥116,071,846	
次年度繰越額	¥0	¥23,254,252	※4

※1:正会員45社、賛助19社 / ※2:当初予算内訳:観光部会870万、環境部会740万、食部会460万、人材部会900万、都市再生部会1,350万、予備費180万、合計4,500万 / ※3:印刷費、通信費等 / ※4:WF分科会活動費450万、福岡県900万、総会費用200万

勘定科目	予算	実績	
収入の部			
会費	¥15,000,000	¥16,400,000	※1
協賛金等	¥118,254,252	¥119,454,252	
民間拠出	¥45,000,000	¥37,500,000	※2
行政拠出	¥50,000,000	¥58,700,000	
国土交通省補助金等	-	-	
2012年度繰越金	¥23,254,252	¥23,254,252	
受取利息	-	¥2,667	
雑収入	-	¥502,134	※3
収入合計	¥133,254,252	¥136,359,053	
事業費	¥122,000,000	¥121,999,000	
人件費	¥41,000,000	¥41,000,000	
直接経費	¥81,000,000	¥80,999,000	
部会支援等	¥56,500,000	¥56,500,000	※4
WF分科会活動費	¥4,500,000	¥4,499,000	
マーケティング等	¥11,160,000	¥13,000,000	
地域戦略担い手人材の育成	¥2,420,000	¥0	
リレーション	¥2,420,000	¥1,400,000	
その他経費	¥4,000,000	¥5,600,000	※5
管理費	¥10,000,000	¥9,126,525	
事務所運営費	¥1,000,000	¥1,265,525	
事務所賃料・共益費	¥400,000	¥1,265,525	
ICT機器・リース料	¥600,000	¥0	
組織管理費	¥9,000,000	¥9,000,000	
予備費	¥1,254,252	¥0	
支出合計	¥133,254,252	¥131,125,525	
次年度繰越額	¥0	¥5,233,528	

※1:正会員51社、賛助22社 / ※2:5社 / ※3:都市再生フォーラム支援金(オランダ王国総領事館) / ※4:当初予算内訳:観光部会1,350万、環境部会1,050万、食部会700万、人材部会350万、都市再生部会2,200万、合計5,650万 / ※5:総会、役員会費、印刷、通信費等

第1期 活動報告書

～多様な人が集い繁栄し続ける地域を目指して～



福岡地域戦略推進協議会

〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1 市役所北別館6階
(公益財団法人福岡アジア都市研究所内)

Tel:092-733-5682 Fax:092-733-5680

www.fukuoka-dc.jp